



2022年度
年間聖句

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

フィリピの信徒への手紙4章4節～7節

広島女学院と私と同窓会

広島女学院同窓会会長
竹内 路子



同窓生の皆さま、平素より同窓会のためにご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大が確認された2020年4月に会長就任し2年が経ちました。大矢みどり会長(当時)より人事の打診をいただいた時、凡庸な学生時代を送った私にとっては驚天動地なお話で、最初冗談ではないかと思ったほどです。

広島女学院と私の出会いは1969年、多くの同窓生が中学あるいは大学から広島女学院の門に入る中、私は高校からの入学でした。中学で4クラス、高校で1クラスとっていた時代の最後の学年です。この年は「学科試験なし」で、「面接・作文」だけの選考基準の中、私は運良く(運だけで)入学を許されました。中学から上がってきたクラスメートの女学院4年目の貫禄に圧倒され、身の置き場に困った当時を思い出しますが、直ぐにクラスや部活の中で友人もでき、高校3年間を楽しく終了することができました。大学は、高校から1/2の生徒が女学院大学へ上がっていた時代で、私もそのまま推薦枠で進学。4年間での思い出は勉強より部活が大部分を占める暢気な学生でした。女学院での7年間は披瀝するドラマチックなエピソードもなく、卒業後、母校との繋がりも長く途絶えておりました。そんな私と同窓会と繋がりを持つのはホームカミングデー実行委員になった48歳の時からです。3世代(48歳60歳70歳)が一年をかけ共同して一つの目標に向かう… 人生の一番多感な時期に同じ広島女学院のキリスト教に立脚した教育を受けたことのみが共通項で、それは年代を越えるものでした。懐かしい恩師や過ごした校舎は違っても話が通じ、皆一気に無邪気な女学院生の顔になる… 同窓会活動の醍醐味に少しながら触れた瞬間でした。

後に同窓会本部幹事となり内から同窓会を眺めますと、多くの方々の地道な活動によって会が成り立っていることを知らされました。各ブロック・支部・地区長並びに本部幹事、学年幹事皆さまのボランティアでの活動に対し、ここに改めて感謝の意と共に心より敬意を表します。

同窓生の皆さま、各地区の活動やこの同窓会報・HP等を通して「あの頃」に帰ってみませんか…

これからも母校と同窓会に心をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

2022年度全国代表者会議

2022年度全国代表者会議が4月22日(金)午後1時より中学チャペルで開催された。竹内会長の開会挨拶後、礼拝、永眠者への黙祷。出席者は各ブロック長、広島県内の各地区長、本部幹事、事務局の39名。議事は書記が2021年度事業報告を、会計が2021年度の会計報告を行い承認。さらに、2022年度事業計画(案)、2022年度予算(案)が提案され、それぞれ承認された。

本部幹事	就任	退任
	岸本 佳代子 (高30文英12) 赤間 いづみ (高29文英11)	法費 美子
交代地区長	就任	退任
	佐伯地区長 高山 和江 (文英1)	内山 豊子

2021年度 収支決算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで 広島女学院同窓会 2022年3月31日作成(単位:円)

収入の部	科目	2021年度予算	決算(2022.3.31)
	同窓会会費	7,500,000	8,250,000
大学 15,000円×350	4,500,000	5,250,000	
高校 15,000円×200	3,000,000	3,000,000	
会友	0	0	
事業収入	1,000,000	1,083,164	
グッズ販売	800,000	866,790	
バザー	200,000	216,374	
雑収入	0	1,400	
受取利息	0	101	
寄付金	0	410,245	
前年度より繰越金	10,627,729	10,627,729	
合計	19,127,729	20,372,639	

支出の部	科目	2021年度予算	決算(2022.3.31)
	事務費	1,630,000	1,851,725
消耗品費	300,000	119,059	
備品費	300,000	702,666	
人件費	1,030,000	1,030,000	
事業費	2,324,000	2,086,916	
全国代表者会議費	30,000	31,940	
宗教委員会費	103,000	40,945	
事業委員会費	510,000	467,600	
バザー委員会費	100,000	0	
同窓会報編集委員会費	1,370,000	1,345,730	
学年幹事・名簿委員会費	111,000	100,701	
ホームカミングデー補助費	100,000	100,000	
母校支援費	1,900,000	1,842,342	
アイリスセンター維持費	600,000	600,000	
ゲーンズ奨学金	800,000	800,000	
卒業証書カバー補助	500,000	442,342	
通信費	190,000	151,191	
電話料	120,000	92,541	
郵税	70,000	58,650	
旅費交通費	300,000	120,000	
同窓会館運営費	160,000	149,135	
水道・光熱費	140,000	133,996	
消耗品等	20,000	15,139	
慶弔費	200,000	33,244	
寄付	1,000,000	0	
雑費	500,000	589,622	
予備費	200,000	0	
同窓会100年史制作費	2,500,000	0	
平和祈念式口座へ繰入	50,000	50,000	
基本金引当資産へ繰入	0	0	
(小計)	10,954,000	6,874,175	
次年度へ繰越	8,173,729	13,498,464	
合計	19,127,729	20,372,639	

寄付 2021年12月～2022年1月

牛田 和子様(大英12)	30,000円
斉藤 順子様(大英17)	2,000円

2022年度年間行事予定

4月22日(金) 4月23日(土)	全国代表者会議 2022年ホームカミングデー
6月10日(金)	同窓会報「花あやめ」14号発行
7月～8月	「小さな祈りの影絵展」への協力
8月6日(土)	広島女学院 平和祈念式
11月3日(祝・木)	同窓会バザー
2023年1月	高校 同窓会受入式
2月10日(金)	同窓会報「花あやめ」15号発行
3月	大学 同窓会受入式

随時 HPに更新していますので、ご確認ください。

召天

謹んで哀悼の意を表します。

朝倉 慶子 高女50	堀内 絢子(松村) 高9大英9
井上 房恵(萩原) 大英7	田村 邦(中村) 高19
吉田 花津江(吉田) 高24文日6	道上 田鶴子(浅尾) 高女49
満尾 松江(狭戸尾) 高24文日6	井上 恒子(上田) 高女51
隅田 光子(川田) 高女52専保2	平本 通子(平本) 高11短10
加藤 寿子(越智) 高21	藤田 康子(松島) 高女49
石森 真生子 高31	片岡 利子(陽田) 高4大英4
柏木 寿代(山本) 高31	大島 富美子(高松) 高6
野村 一枝(大久保) 短20	原 和子(船木) 高9大英9
野田 京子(景山) 高12	世良 美和(長岡) 高女47
石風呂 美智子(畑) 高7	初本 千尋 高4短3
河原 康子(六拾部) 高3短2	興津 俊子(桑原) 高女44
藤浪 智子(山口) 専保2	今福 富美枝(二宮) 高女56
波田野 智代子 高11	土屋 勝子(新谷) 高女53
金谷 慶子(篠原) 短被2	松本 弘子(児玉) 高3大英3
西本 芳江(今西) 高5短4	末廣 志乃(江川) 高29文英11

2021年11月から2022年3月までにご逝去のお知らせをいただいた方々です。(敬称略)

同窓会バザーのお知らせ

日時 2022年11月3日(祝・木)10:00～13:00

場所 ゲーンズホール前テント(バザー)

同窓会館(カフェ・アイリス)

バザーのための献品を常時受け付けております。

お問い合わせ:同窓会館 TEL/FAX (082) 221-1059

同期会(高19)中止のお知らせ

今秋に延期しておりました高校19回同期会はコロナ感染状況を鑑みて中止といたします。 担当Eクラス 中村順子(井上)



編集後記

紫陽花咲く初夏に「花あやめ」をお届けするのは今回が初めてです。学院報の発行月・発行回数の変更に伴い、同窓会報も6月と2月の発行となり、冬のご報告を夏に、夏のご報告を冬にさせて頂く運びとなりますが、引き続きご愛読いただければ幸いです。

コロナ禍3年目、ようやく対面での全国代表者会議が実現し、ホームカミングデーも会食形式での開催が叶いました。少しずつ今までの日常を取り戻していければと切に祈ります。



懐かしの寄宿舎

「この時の生活が人生の大きな支えとなった」と語った卒業生がいる—広島女学院100年史に記された言葉です。

女学院の寄宿舎は1890年(明治23年)上流川町広島英和女学校の新校舎とともに産声をあげました。その後何度も被災、焼失に見舞われ、被爆後1947年(昭和22年)宣教師宿舎を兼ねて再建(木造6畳3人部屋)、1958年(昭和33年)には鉄筋コンクリート3階建の中高新寄宿舎が完成、53年後の2011年(平成23年)に惜しまれつつ解体…と実に121年の長きにわたる歴史をたどります。記憶の中の思い出の寄宿舎へ、かつての寮生にいざなっていただきましょう。



昭和35年 寄宿舎食堂



中・高寄宿舎(昭和33年11月竣工)

寄宿舎の思い出



大塚 善子さん(高12)

12才の少女が親元を離れて寄宿舎に入る……村岡花子さんの世界と思われる方も多いのではないのでしょうか。4年制や6年制が義務教育だった時代、多くの少女が12才で奉公や工場に行った時代、親が寄宿舎に入れてまでの教育のチャンスを与えられた少女は、人生を日のあたる場所から始められた恵まれた少数者だったでしょう。広島女学院にも寄宿舎がありました。いつからかはっきりしないのですが、女学校から専門部までが一緒に生活され、原爆投下で燃え尽きてしまう前には、数棟の日本家屋が廊下でつながり、間にお庭があったそうです。和服の方たちが日本庭園で写真に写っておられました。戦後の私どもの時代はもうそういう優雅さはなく、特別な学生でもなく、家が遠い子が入ると言った感じでしたが、教員の家庭が多めだったような気がします。

戦後再建された時期も早かったと思われる。1954年に私が入学した時には、もう中高寄宿舎を卒業された方が数学年おられましたから。建物は木造2階建、高校運動場の北の端、日当たりの良い場所にたっています。

が、台風の時などは鉄筋の中学校舎に避難したりもしました。(それも、楽しいことでした…)。

寄宿舎は3人部屋、上級生・下級生がまじります。中1は生活のすべてを教えてもらいます。起床、掃除、礼拝、食事、時間の決まり、お洗濯をする場所、お風呂の約束などなど。それに聖書と讃美歌を持っていく時、いらない時。本当に何からなにまで。そして、夕方になると家が恋しくてしょんぼりする1年生の慰め役まで上級生の担当です。本当にどれだけお世話になったでしょう。そうして、えらいもので1年たつと、甘えん坊の泣き虫が新入生の世話ができるようになっていくのです。寄宿舎の素晴らしいところです。生活と勉強がそこにはありました。

個人的なことですが、中1の最初の部屋のお二人と大阪で再会しました。奇跡的!と私たちは言っています。いま、月1程度お会いしています。塚原さん、日高さんと旧姓で呼び、お二人は私をちゃん付けです。なんの違和感もなく当然のように私はあまえています。神様はいたずらはなさいませんか?3人が再会したことは、なにが素晴らしいいたずらかプレゼントのように感じています。

さて寄宿舎に入ってよかったか?入った時のホームシックはつらかったですが、今は上下・同級に多くの姉妹のような友だちがいます。舎監の先生方の優しさも年とともにわかってきました。少し自立できました。大きくYESです!

寄宿舎あれこれ

岸田裕子さん(高35)に思い出を語っていただきました。

•一番印象に残っている出来事

寄宿舎は中1~高3の縦割りで4人一部屋でした。学期末毎に部屋替えがあり、誰と同じ部屋になるのか、何号室になるのか、とてもワクワクしました。皆、自分の持ち物、ふとんから勉強道具までを開始のブザーと共に一斉に移動を始める、まさに大移動でした。私にとってはこれが終わると一学期が終わって長期休みに入るという風物詩でもありました。

•思い出の寄宿舎食

夕食で好きだったのはハンバーグと白菜とベーコンのスープです。ハンバーグは大きなパット一面に敷き詰められ、一枚で焼かれて、ヘラで切り分けて出されるのですが、パットごと焼くからでしょうか、ジューシーで美味しかったです。白菜とベーコンのスープはこしょうが効いていて、今でも家で作る事があります。



•舎監の先生の思い出

上野信子先生はお父さんのような、青山和先生はお母さんのような存在でした。もう一人、食事を作ってくださる黒田のおばさんとみんな呼んでいましたが、いつもかっぽう着を着て青山先生と一緒に朝夕食事を作ってくださっていた姿が印象に残っています。



•寄宿舎での経験がその後生きていますか?

ずっと寮生活をしてきたおかげで、人をあまり頼らず自分のことは自分でやるのがあたりまえになりました。だから、ワンオペ育児も平気でした。

(写真は解体前の寄宿舎)

ヒロシマに生きる喜びー小さなミッション



土屋 時子さん
(高19文日1)

私は12歳より60歳まで約半世紀もの歳月、広島女学院という園の中で、自由奔放に学び遊び、自分のやりたいことだけをしてきた。その人生の中では、新たな命の誕生を喜び、また愛する者たちとの別れに涙し、その繰り返しだったような気がする。友人達には迷惑もかけたと思うが、中学時代からの友人や同窓生たちが、私の現在の活動を応援してくれているのだから、心底有難いと思う。

女学院大学図書館では37年間、司書として働かせていただいた。今も生きる指針となっているのは『図書館員を志す人へ』（前川恒雄講演録）の一節で、「良い図書館員とは、①奉仕する人 ②本を知る ③利用者を知る ④問題意識をもつ ⑤ねばり強く ⑥勇気をもつ」という言葉。最後の「勇気をもつ」は意外だった。古い習慣を変革するためには「闘う勇気」が必要だというのだ。図書館によって自立した人間が育つ、育てなければならぬ、とも書いてあった。

プロフィール

「広島文学資料保全の会」代表。大学時代から演劇を始め、卒業後大学の図書館司書として、退職まで働く。演劇活動も続け、峠三吉たちの青春を描いた市民劇や、満蒙開拓団の悲劇を描いた「一人芝居」を全国各地で上演した。大学図書館内の「栗原貞子記念平和文庫」設立に関わり、原爆文学資料のユネスコ「世界の記憶」登録を目指し、来年三度目の挑戦をする予定。

もっとも、私自身は良い図書館員とは言えず、好奇心が強く、演劇活動や平和活動にも忙しく、決して図書館一筋ではなかった。2003年から学生たちと一緒に取り組んだ、広島女学院原爆被災朗読劇「夏雲は忘れない」は私の貴重な思い出であり、出演した学生との交流が今も続き、共に朗読活動をしている。

退職後10年余り経ったが、今もテーマは変わらない。「たった一度の命、命を大事にするための、あらゆる活動をする」ことである。

現在は四國五郎さんの「おこりじぞう」の朗読や「移動演劇さくら隊」の構成劇、「8.15ヒロシマを語る市民朗読会」などを続けている。

2年前から、旧陸軍被服支廠の保存活用を願う若者4人とネットラジオを立ち上げた。その名は「Hihukusho ラジオ」。毎回いろんな分野の人にインタビューをし、文学コーナーで文学作品を紹介する1時間のラジオ。海外からのZoom収録もし、43回目となった。

今年初め、突然「広島市立中央図書館等の移転問題」が起こった。爆心近くの公園内から駅前の商業施設高層階に移転するという。私は2013年から「広島文学資料保全の会」代表となり、広島の文学資料保全のために活動しているので、図書館内の「広島文学資料室」が心配である。現在、「こども図書館移転問題を考える市民の会」の皆さんと協力し、移転反対の署名活動を展開している。

「国際平和文化都市」広島の、あるべき姿が問われている。



「おこりじぞう」の舞台



「Hihukusho ラジオ」収録風景

2022年ホームカミングデー報告

ホームカミングデー実行委員長
金澤 節子

いまだに次々と変異株が出現しコロナ終息という言葉が聞かれない中ではありましたが、4月23日(土)まさにゲーンズ先生のお誕生日に、リーガロイヤルホテル広島に於て196人のご参会をいただき無事開催することができました。日下美穂さん(高26)の講演では、減塩の大切さを聞かせていただき日々の生活に取り入れてゆく重要性を学びました。「～集える喜び～」というテーマのもと、どんな状況になっても、どんな風にも実現できるか実行委員一同知恵を出し合いながら案を練っていきました。世代を超えて意見を出し合い協力し合い、楽しみながら実行委員会が進行できたことは大きな喜びでした。ミドル、ジュニアの実行委員がしっかりとデジタル技術を駆使し、シニアを取り込み、ネットワークを作り、密に連絡が取れる体制ができたことはとても心強いことでした。横の繋がりがだけでなく、縦の繋がりの楽しさも味わわせていただきました。又来年も皆様と集える喜びを願ってやみません。



バイブルクラス クリスマス礼拝

バイブルクラスは、同窓会館で行われていましたが、コロナ禍の為使用できなくなり、広島流川教会の小礼拝堂で行っています。

2021年12月22日(水)のクリスマス礼拝には、13人が出席しました。向井希夫牧師がメッセージを伝えてくださり、一同深く感銘を受けました。不安や困難の多い現在の私達に神様のみことばが力強く語りかけられ、力を与えられます。ご一緒に賛美いたしましょう。

バイブルクラス(聖書を学ぶ会)

日時 毎月第4水曜日 AM10:30～11:30
(8月・12月休会)

場所 広島流川教会 小礼拝堂

内容 「ルカによる福音書」を中心にした学びと交わり

講師 広島流川教会 向井希夫牧師



カイト 由利子さん
(大英17)

他を思う

Peace looks like thinking of other people. (Seya, age 4.5)

題目は、孫の誠也による幼稚園でのプロジェクト「平和のビジョン」の作品からの引用である。

「他を思う」。振り返ると、いつも他人との交わりで育てられたように思う。子供の頃、祖父が始めた雑貨屋兼住宅に住んでおり、多くの人が入り出す環境にあった。小学校一年生の時、「家族は何人ですか」と聞かれ、答えることができなかった記憶がある。親戚も頻繁に訪問していた。祖父の妹達が法事などで訪問。2人の姉妹は、今日では車で1時間や2時間もあれば行ける距離に住んでいたが、彼女たちの言葉遣い(単語、音声の抑揚など)が異なっており、不思議に感じていた。また親戚が訪問すると、挨拶のリチュアルが始まる。お互い向かい合い膝まづき、前回の出会いから順を追ってイベントについて、かしまった言葉で語り、感想を述べ、その都度互いにお辞儀する。お辞儀は4回も5回にも渡り、「今日の訪問の感謝」で終わる。また実家は、祖父や父の地域での役割の為か、村の会議が、我が家ではしばしば開かれていた。そこで挨拶、コミュニティの方々の発言を、襖に耳を立てて聞いていた。このような言葉のやり取りや言語行動は、強い印象を与えた。自然と言語学に興味を持つようになった。

「他を思う」。40歳になり、ようやく、子連れ(6歳と3歳の娘達)でアメリカのある大学院に進学できる機会を得た。50歳になり、日本の大学にて職場を与えられた。昨今、教育現場では、「学習者をまず思う」ことが奨励されている。ついこの間までは、教授は、専門知識を学生に一方的に講義したが、最近では、学習は、学生のクラスに持ち込む全て(例:学習者のビリーフ、文化的・言語的背景、アイデンティティ)を資源と考え、それらを活用することが大切とされる。学生と教師の相互作用により、学習を創りあげていくという考えである。つまり、「先生が教える側で、学生は受ける側」という立場から「教師と学習者が共に学ぶ」へと変化している。

「他を思う」。大学で最後に所属したのは国際部で、海外の協定業務などに加え、交換留学生のクラスなどを担当した。自分の家庭はすでに異文化の世界ではあるが、改めて、「他を思う」—海外から日本に来た学生の視点—を突きつけられた。様々な文化や価値観を持つ留学生と接することで、これまでいかに、「日本や日本人を、又は自分を、理解していなかった・いない」ことに気づいた。と同時に、異なる文化との交わりで、人間としての価値観の共通点も見え始めてきた。昨今のバズワードである多様性理解の要は、自分の持つ世界観は、実は隠れている・気づかないところにあるとの思いに至ること—ではないかと、自分勝手に解釈している。

「他を思う」。言葉・言語学への関心を今日まで育んでくれたのは広島女学院での交わりであることを思う。大学英文科を卒業後は、縁あって、LL教室(今日ではコンピューター室だろうか)助手として3年間奉職することができた。大学での授業、事あるごとにいただいたアドバイス、宣教師の先生との交わり、先生方の推薦で校外での活動に参加できたこと、事務スタッフとの交わりは、今でも鮮明に記憶に残っている。それは、真摯に「他を思う」心で接して頂いたかけがえのない支えであった。

女子大学だったからこそ、女性としての立場は守られており、奨励されていた。振り返ると、「他を思う」や与えられた場所でベストを尽くすことの生き方は、広島女学院で育てられたと言っても過言では無い。感謝の念を込めて、お礼を申したい。

4歳半の孫から教わる今日。75歳になり学ぶこと多し。

プロフィール

関西大学名誉教授。言語学博士(社会言語学、語用論、第二言語習得論)。大学在職中は、国際部長、副学長として国際交流推進業務を担当。夫(インターナショナルスクール勤務)の転勤でアフリカに6年滞在。ソマリアでは、ESL(外国語としての英語)教師、ケニアでは、事務スタッフ。

東京支部 クリスマス祝会

12月10日(金)
銀座教会
参加者40名

東京支部は、12月10日(金)に、銀座教会のご協力をいただき、広島女学院同窓会クリスマス会を開く事ができました。

大礼拝堂での高橋潤牧師司式による礼拝のあと、ぶどうのお部屋でささやかに懇親会を持ち、先輩のお話や、初めて参加された若い方々の感想を伺いました。また、小規模ながら、バザーにも皆様のご協力をいただき、あたたかい雰囲気で開催することができました。



白井 京子
(高23文英5)

関西ブロック クリスマス祝会

12月4日(土)
大阪東十三教会
参加者15名

新型コロナウイルス禍で昨年は中止しましたが、今年は東十三教会の協力もあって、十二分に気をつけながら礼拝を持つと、大阪の役員を中心に準備しました。

岡本寿吉牧師にメッセージをいただくのは3回目です。最初の年は3つのL(Light・Life・Love)を、次の年は別の3つのL

(Least・Lost・Last)をキーワードに話をしたとの復習から入り、今回はアドベントのろうそくの象徴する希望・平和・喜び・愛をキーワードにして、クリスマスの喜び・イエスを知る喜び・信仰の喜びをわかりやすく説いてくださいました。

教会が街中にあるので、参加者が少なかったのは仕方ありません。ティーパーティーもバザーも今年は中止です。広島から送っていただいたレモンを含む小さなクリスマス・プレゼントをお土産に散会しました。が、久しぶりに会えた喜びに話はずみ、後片付けが遅くなったほどでした。



山口 裕子(高15)

感謝を込めて

私は1961年に広島女学院中学校へ入学し、1967年に高校を卒業、大学を卒業後は数学教諭として母校へ迎え入れていただき、40年以上お世話になりました。

入学した頃は礼拝で色々な讃美歌を覚えるのが楽しく、なかでも最初に習った讃美歌90番は、今も口ずさむと何とも言えない懐かしい気持ちになります。高校に入ると英会話が選択になり、スピーチコンテストも盛んで、高2の時ハートマン先生に連れられて京都のコンテストに参加しました。先生との旅行も含め、色々な意味で良い経験だったと思います。頑張っていた英語の勉強に限界を感じ、ちょっとしたきっかけで勉強の中心が数学になったのはその頃です。高2、3の担任は温厚な石原先生で、私はとてもおのびとおのびと色々な事にチャレンジして、楽しい高校生活をおくることができました。60年代の高度成長期真っただ中で、東京オリンピックがあり、修学旅行は私にとって初めての新幹線やブルートレイン利用で箱根・東京・日光6泊7日と、今では考えられない日程でした。

母校での40年余の教員生活を振り返ると、今思い



元 中高教諭 数学科
中村 順子 先生(高19)

出しても穴があれば入りたい様な失敗も多々ありましたが、その都度色々な人に助けていただき、それに何より生徒達と過ごす時間が本当に楽しくて、あつという間に過ぎた気がします。高3の担任のある年、体育大会のクラス対抗リレーの練習をしようと持ち掛け、しぶる生徒にバトンタッチだけでも、と放課後練習をさせ、本番では1位となり生まれて初めて胴上げをしてもらいました。何かをする時にはちょっとでも準備をしないと楽しさが増す、ということを感じてはしかったのです。48歳の頃にも膜下出血で入院し2度の手術を受けました。その間多くの人が支えて下さり、病気のうちにも大きな恵みを感じて安らいだ気持ちになりました。お見舞いのカードにあった詩篇23の「死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。」という聖句は今も私のお守りになっています。これまでのたくさんさんの出会いに感謝しています。受けた恵みをこれから少しでも返していけたらと思っています。



佐伯地区 クリスマス祝会

12月10日(金)
ホテル広島サンプラザ 太陽の間
参加者23名

2年ぶりのクリスマス会でしたので、多くの参加者があり、大広間での会となりました。コロナ禍の中、当日は「広島市感染者ゼロ」でしたが、会場にはアクリル板を設置していただきました。この度は特別ご招待の元中高数学教諭の船越聖示先生のご参加があり、また初参加3名の方々をお迎えして、盛大なクリスマス会となりました。



第1部は、昔懐かしい賛美礼拝。讃美歌を歌い、聖書の御言葉を聴きながら、皆さまとても感慨深いお顔でした。

第2部は、食前の祈りの後、彩りも鮮やかな美味しい和食を堪能いたしました。お一人お一人の近況をお聞きしながら、リラックスした明るい雰囲気が印象的な親睦会となりました。最年長の野村久子さんの「この2年間で皆さん、歳をとりましたね」とのお言葉に大爆笑でした。あつという間の和やかな3時間となり、「楽しかったね」の皆様のお言葉に、盛会の喜びを感じました。最後に集合写真を撮り、来年の約束を交わしながら、それぞれ帰途につきました。

森 静子(文英1)

千葉支部
クリスマス礼拝

12月6日(月)
新津田沼教会
参加者14名

千葉支部は、2年振りに新津田沼教会でクリスマス礼拝を行いました。

会食無し、礼拝のみ、讃美歌はマスクをつけて、制限はありましたが「できる時にできる事をする」という気持ちで行いました。

出席者も少なく14人でしたが、和やかな時間を共有しました。とても良かったです。

村中 陽子(高27文英9)

